



第 19 回 例会報告 (11月13日)

【出席報告】

・会員数 53名
 ・当日出席率 65.21%
 ・出席数 31名
 ・前々回修正出席率 96.00%
 ・欠席数 22名

<欠席会員>青野(淳)、檜垣(直)、平田、飯、板脇、冠、小堀、近藤、桑森、松木、村上(修)、岡本、佐伯、竹田、吉田
 [免除会員] 青野(明)、原田、檜垣(巧)、光藤、宮本、白石、高木

<10/30 欠席補填>(10/20 今治北)原田、飯、近藤 (10/21 今治南)檜垣(俊)、平田、冠、木原、桑森、眞鍋、松木、田中(悟)、吉田

◇**会長報告**・例会終了後にパスト会長会を開きました。

◇**幹事報告**・11月20日(木)は職場訪問例会です。12時30分より繊維産業技術センター様を訪問します。駐車場は敷地内にあります。

- ・12月18日(木)18時30分より今治プラザホテル2階ペペにて忘年夜間例会を開催します。
- ・2015年1月18日(日)18時より、今治国際ホテル2階クリスタルホールにて今治3RC合同新年家族例会を開催します。会員7,000円、夫人6,000円、お子様4,000円です。

◇**親睦活動委員会・お誕生日スピーチ**・大澤正尚会員：76歳になりました。誕生日を祝っていただくのはいつまでたっても恥ずかしいものでありますが、これからも宜しく願います。▼眞鍋次男会員：ゴルフのドライバーも50代までは飛んでいましたが、最近は飛ばなくなり年をとったと感じます。これからも励んで頑張っていくので宜しく願います。▼渡邊道信会員：創立80周年の時には副実行委員長と総務委員長をさせていただきました。来年2月7日(土)に今治で開催されるIMでも総務委員長をさせていただきます。引き続き宜しく願います。

新会員卓話

◆**木原盛展会員**：私の経歴は銀行に入って33年、今治勤務は10年になる。後は松山勤務10年、大洲勤務8年、残りは東予地区に勤務した。転勤は16回と比較的多い方で、ほとんど家族と一緒にであった。この度、初の単身赴任で一人の自由や不便さを感じている。▼愛媛銀行は、来年9月に創立100周年を迎える。当行は、大正4年に、愛媛県に設立された無尽会社から始まる。無尽とは各個人が一定の金額を出し合い、資金を必要とする人が借りるというシステムで、歴史は鎌倉時代にまで遡る。明治時代になると無尽を生業とする無尽会社が設立され、大正時代には全国で数百社にまで増えた。無尽会社は会員に掛け金を払い込ませ、入札や抽選によって金銭以外の給付(物品無尽)をするという営業を行ってきた。当行は、昭和18年3月に、東予、今治、松山、南予、常盤無尽の5社が合併し、松山市に愛媛無尽株式会社として設立された。▼今治無尽は、大正5年2月10日に設立された。波止浜・波方の造船業と海運業の発展を担った今治の無尽会社がどこであるかを、今治地域の二つの無尽会社(今治無尽・東予無尽)の状況を比べて検証、推考された。①無尽5社が合併する前の全体の利益のうち東予無尽の占める割合は78%、これに対し今治無尽は0.5%と、東予無尽は県下の優良無尽会社である。②南予無尽の創業者である三宅清忠は今治出身で、「今治には東予無尽があり業績が良いので宇和島でもやっていた。」ということで、宇和島で無尽会社を設立した。③波止浜の金融機関を昭和13年当時の「愛媛県番号簿」で調べると、53件の電話加入者のうち2件のみ。そのうちの1件は、石田社長(東予無尽社長)であった。波止浜の栄町に出張所を開設し、入札会場を持っていたと思われる。④東予無尽今治支店長であった村上潔の実家が、今治の中心地で鉄工会社を運営していた。村上潔は昭和15年に「今治船渠株式会社」の初代社長に就任した。さらに国の指導で、「今治造船有限会社」と合併し、昭和18年9月28日に「今治造船株式会社」が設立され、その時の、初代社長に就任している。このことから海運業・造船業で、実力と人望のある大物経営者であったことがわかる。⑤5社合併で今治無尽は閉鎖され、東予無尽今治支店が愛媛無尽株式会社の今治支店となり、船主たちに融資を継続し海運業・造船業を育てた。これらの結論によりこれまで伝えられてきた今治無尽より、東予無尽今治支店が今治の海運業・造船業の発展に大きな役割を果たしたと推察する。▼今回の100年史は愛媛にゆかりのある作家の青山氏が携わり、このようにかなり掘り下げ内容で製作されていくであろう。

次回例会(11月20日)

【職場訪問例会】

日時：2014年11月20日(木) 12:30~

場所：繊維産業技術センター

今治クリエイティブヒルズ4番地1 TEL:22-0021

[笹]

